IR Investor Relations 2014 News

第51期　中間事業のご報告

平成26年4月1日～平成26年9月30日

Contents

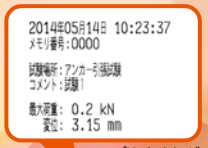
- トップメッセージ
- 財務ハイライト
- セグメント別事業概況
- トピックス
- 会社概要

新製品

テクリテスター®グラフ ポータブルセット

テクノテスターグラフ
インストール済みタブレット
すぐに使える！

ワイヤレス通信
通信範囲約10m



※プリントイメージ

専用
Bluetooth
通信プリンタ

ワイヤレス通信
通信範囲約10m

専用 Bluetooth
通信アダプタ

データをエクスポートもしくは
ワイヤレス通信
（通信機能対応機種のみ）

Windows パソコン

パソコン用テクノテスターグラフで
使用可能

測定部に接続

アンカー非破壊引張試験機 テクリテスター シリーズ

AT-DⅡシリーズ
AT-200

RT-DⅡ シリーズ

ATシリーズ

RTシリーズ

特長

- ワイヤレス通信（Bluetooth 規格）により、試験機と離れての測定・プリントが可能（通信範囲については、状況によって変わります）
- タブレット画面はタテ / ヨコで閲覧可能。荷重・変位グラフをリアルタイムに表示
- 測定データの蓄積が可能。保存データはいつでも確認でき、データのエクスポートによりパソコンでも使用可能

ゆるみに強い！

JCAA
認証品アンカー
※申請中
＋
ゆるみ止めナットの代名詞
U-NUT
NAS3350 準拠試験合格品

特長

（一社）日本建築あと施工アンカー協会認証品と NAS3350 の規格に準拠した試験に合格した、ゆるみ止め機能付きナット「U-NUT」の組合せ品

メタルセーフアンカー®

サンコーテクノ株式会社

JASDAQ
東証JASDAQ上場
証券コード：3435

トップメッセージ

耐震工事・太陽光発電工事の需要に支えられ業績は好調に推移しております。

代表取締役社長
洞下英人

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
ここに平成27年3月期中間期（平成26年4月１日～平成26年9月30日）の業績をご報告申し上げるとともに、今後の取組みについてご説明いたします。

Q1 中間期（平成27年3月期）の業績についてお聞かせください。

A1 当社グループの上半期実績は、売上高が84億33百万円（前年同四半期比8.4％増）、経常利益は6億89百万円（同28.4％増）となり、中間期決算において過去最高の売上高・最高益を達成することができました。

人手不足と言われた建設業界でしたが、製品需要は堅調であり、ファスニング事業における主力製品のあと施工アンカーやアンカー施工ツール関連製品は、昨年に続き好調であったほか、販売数量も増加傾向にあります。自社製品の開発工事を行うリニューアル事業も、工事関連の受注や耐震補強工事などの引合いが増加し、太陽光関連市場向けの製品需要も伸びております。材料販売の好調さと共に、当社独自の工法による工事受注も増えたことが上半期の売上や利益を押し上げ、業績の安定化に繋がりました。

「車両の表示板用電子プリント基板」や「アルコール測定器」などを開発・製造するセンサー事業におきましても、売上高は前年同四半期比で約10％の上昇が見られ、安定的な収入確保ができる事業の柱として着実に成長しております。

Q2 業績の好調さには、どのような背景がありますか？

A2 2つの要因が挙げられます。

一つは建設業界に対する当社の開発姿勢や製品、技術力が認められていることがあります。たとえば、2014年

経営理念

奉仕は、真価の追求なり
啓発は、未来の追求なり
協調は、繁栄の追求なり

社　是

創り、活かし、満たす
「人のお役に立つために、
創造提案型企業をめざす」

社　訓

感性と実践力を磨き、
健康で豊かな環境づくりに
貢献します

心の経営とは

私たちの会社が、最も大切にしていること。
それは「心の経営」です。
心の経営とは、「理想は高く 頭は低く 実践は足下から」を基本姿勢とし、その実践を「挨拶と清掃」に求めています。
こうした日々の実践を通して
活気あふれる職場づくりを
目指しております。

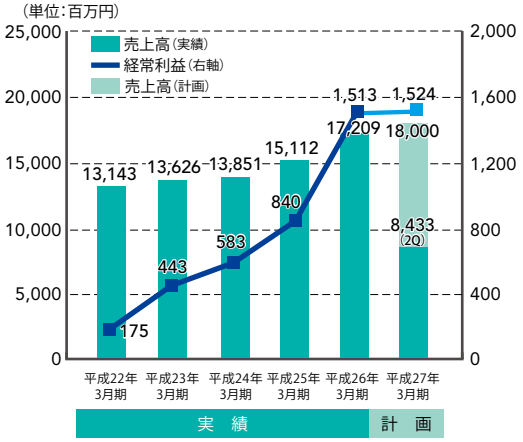
「社団法人倫理研究所」の
ライセンス認定企業プログラム
『倫理17000』の第1号に認定

9月に発表した「既設アンカー孔を再利用して信頼性の高いアンカーに更新する技術」は、劣化した既設の樹脂接着系アンカーを引き抜き、別の位置ではなく同じ位置に、新設のあと施工アンカーを設置することができる技術で、これは大手ゼネコンとの共同開発で実現しました。インフラ構造物のリニューアル工事、耐震工事の増加にともない、安全で信頼性の高い製品開発を共同で行うことで、他社と競合することなく製品と工事の受注に繋げております。

二つめは、社内構造改革の効果が表れていることです。2014年の創業50周年に焦点をあて、2010年から経営スローガン『チャレンジ35』を掲げ、3つの改革と5つの施策を推進してまいりました。この改革により、特に品質力と営業力を高めることができました。こうした当社の総合力がお客様に認められ、建設業界における当社の評価と存在感が高まっております。

できるだけシンプルな状態に切り替えていくことが大切だと考えております。

●中期経営計画の進捗



通期の見通しについてお聞かせください。 Q3

A3 51期(平成27年3月期)に売上高180億円、経常利益15億24百万円を目標に掲げておりますが、主力製品のあと施工アンカーや太陽光発電市場向け製品の需要は引き続き堅調に推移することが予測され、中間期の好調さから通期目標は達成できるとみております。

今日の当社の成長は、2010年の社内構造改革に起因します。ファスニング事業、リニューアル事業、センサー事業の3事業を横断的に繋げ、「開発・製造・販売・企画」の各部門が連携すると共に、「マーケティング思考」をもって"当社らしさ"を追求し、独創性を有した体制の具現化を断行いたしました。

また、工事においては、安全対策はもちろんのこと、お客様が常に安全で簡単に施工ができるよう、徹底して品質力の向上に努めました。モノづくりも、お客様との交渉も、すべて「人」が基点であることから、社内の意識をお客様に向け、力を発揮できる組織、仕組みづくりに取り組みました。様々な管理レベルが上がるとルールや仕組みは複雑化するので、

中長期的な展開、見通しについてはいかがでしょうか? Q4

A4 耐震工事については、公共事業と比べると民間分野での対応は十分とは言えません。地震・津波に対する民間の構造物の整備が必要で、そうしたリニューアル工事の需要に応えたいと考えております。

2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関連した建設工事については、当社では特別プロジェクトチームを立ち上げて対応しております。リニア中央新幹線敷設工事や新駅建設においてもあと施工アンカーは欠かせない建設材料であり、今後、大きな市場が生まれてくるでしょう。

海外については、アジアで日本ブランドのモノづくりを展開するためにタイ工場やベトナムでの販売会社を設立し、東南アジアにおける販売網を拡げており、当社の製品は現地では決して安価な製品ではありません。その品質の高さと価値が認められるよう、引き続き取り組んでまいります。

中期経営ビジョン・戦略　PLAN2015

財務の視点
成長性・収益性・安定性の向上

顧客の視点
トータルシステムでブランド力アップ

「建設業界のファスニング」を主軸に
安全・安心・環境の
3つをキーワードに
市場創出を図る

人財と変革の視点
●資源の有効活用
●活き活きと働ける職場づくり
●CSRの強化

業務のプロセス
●ものつくり体制の強化
●S.T.Gコラボレーションの強化
●製品・用途・新市場の創出

経営スローガン・チャレンジ35

チャレンジ35

3つの改革
- ヒューマン改革(人財育成・人事制度)
- システム改革(IT・インフラ)
- 組織改革(採算性の重視)

5つの施策
- 売上年間5%UP
- 新商品の売上比、年間5%UP
- 原価5%削減
- 営業利益率5%以上
- 成果報酬(賞与)の倍増

Q5 創業50周年を迎えました。株主・投資家の皆様にメッセージをお願いします。

A5 1964年に「現場で安全に留めつけできる製品はないか」というお客様のご要望にお応えすることから誕生したのが、当社の主力製品であるオールアンカーです。発売から半世紀が経った現在もご購入いただいていることに感謝申し上げます。

安全と品質は当社の永遠のテーマであり、その市場は拡大を続けています。「もっと簡単に留めつけできないか」「施工ミスが起きていないか」「維持保全のために強度を出し続けられるか」など、社員一人ひとりがお客様の声に耳を傾け、よりよい製品づくりに邁進してまいりますので、ぜひ長期的な視野で当社の成長を見守っていただければと思います。

今後ともご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

IR担当者より

ステークホルダーの皆さまと双方向コミュニケーションを

当社は、株主の皆様や投資家の皆様に、投資判断に必要な会社情報を適時・適切・公平に開示すること、また当社を取り巻く全てのステークホルダーの皆様に当社の事業活動をよりご理解いただくため広報活動を充実させることを、IR活動の基本方針としております。

IR活動では、自社の経営情報を株主の皆様をはじめとするステークホルダーに正確に伝達することが重要になります。IRの場で経営トップは業績の要因分析、市場分析などの現状認識、そこから導き出される経営課題、その対策としての経営戦略や経営計画を発表しなければなりません。これらのことを着実に行うことで、ステークホルダーと企業のコミュニケーションを深めることが可能となり、IR担当として日夜取り組んでおります。

また、IR活動は社内や外部に向けて情報発信するだけではないとも考えております。会社がどう見られているのか、外部の情報を吸収する活動でもあり、株主の皆様や投資家の皆様からの評価をIRで吸収し、経営に活用することも非常に重要です。株主の皆様からは、アンケートを通じて様々なご意見をいただきました。この場を借りて、御礼申し上げます。皆様からの貴重なご意見は、引き続き当社グループの経営方針やIR 活動の参考とさせていただきます。

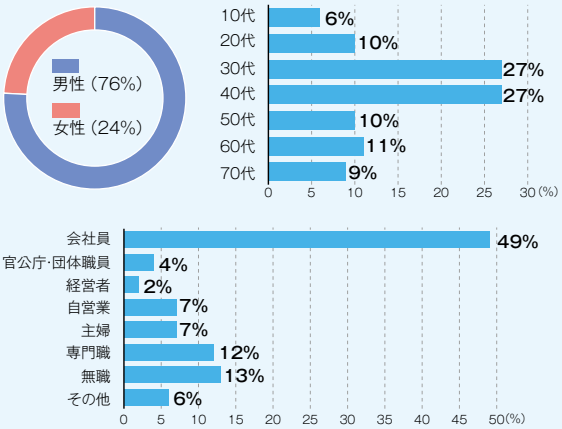
今後も皆様からのご意見をお聞かせいただきながら、積極的に情報発信する双方向コミュニケーションをIRのあるべき姿と考え、取り組んでまいりたいと思います。ご支援、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

担当メンバー （上段 左から） 甲斐・楠見
（下段 左から） 岩間・高山・黒川

株主様アンケート結果のご報告

本誌「IR News」第50期事業のご報告において実施させていただきました、「株主様アンケート」では、皆様からのご回答ならびに貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。
以下にアンケート結果の一部をご報告いたします。

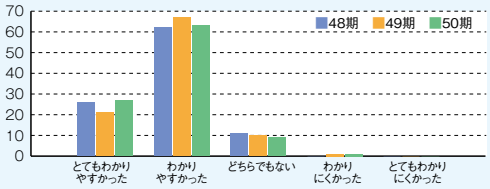
▶ご回答者様の属性等



▶アンケート回答結果

Q1. 当社のIRニュースの感想はいかがですか?

とてもわかりやすかった	27%
わかりやすかった	63%
どちらでもない	9%
わかりにくかった	1%
とてもわかりにくかった	0%



「とてもわかりやすかった」と「わかりやすかった」の合計は漸増傾向にあり、今後ともわかりやすい冊子の制作に努めてまいります。

Q2. 特に興味を持ったページはどこですか?（複数回答）

トップメッセージ	36%
特集	50%
財務ハイライト	28%
セグメント別事業状況	23%
トピックス	20%

Q3. 今後、当社に何を期待しますか?（複数回答）

安定的な収益	46%
積極的な事業拡大	18%
株主への利益還元	47%
株主優待の実施	41%
工場見学（説明会）の実施	9%
その他	1%

Q4. 当社株式購入の理由は何ですか?（複数回答）

将来性・成長性	48%
安定性・業界トップシェア	28%
経営トップの考え	8%
商品開発力・技術力の高さ	21%
財務内容	11%
配当性向・配当利回り	30%
その他	2%

Q5. 当社に対する不満はありますか?（複数回答）

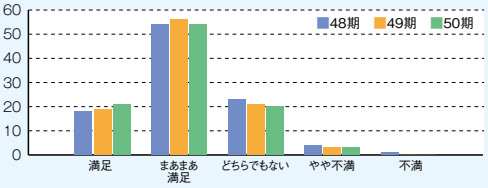
業績	6%
株価	8%
配当	18%
認知度	22%
出来高・流動性	5%
商品PR	6%
特にない	44%
その他	1%

Q6. 当社ホームページ、IRサイトについてご感想はいかがですか?

とても見やすい	13%
見やすい	47%
どちらでもない	18%
見にくい	0%
とても見にくい	0%
見たことが無い	20%

Q7. 当社のIR活動についての評価を教えて下さい。

満足	21%
まあまあ満足	54%
どちらでもない	20%
やや不満	3%
不満	0%



過去3期間におけるアンケート調査結果をみると、「満足」と「やや満足」の合計は同水準で推移しております。引き続き皆様にご満足いただけるよう、IR活動の更なる向上を図ってまいります。

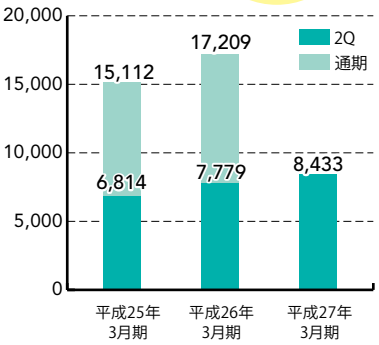
財務ハイライト

当社グループは、中期経営ビジョンのもと、安全・安心・環境をキーワードに各事業において新製品の開発に注力。高付加価値製品の販売強化やコスト抑制にも努めました。当第 2 四半期連結累計期間の売上高は 8,433 百万円（前年同四半期比 8.4% 増）、経常利益は 689 百万円（同 28.4% 増）、四半期純利益は 443 百万円（同 42.5% 増）となり増収増益を確保しました。

●売上高

（単位：百万円）

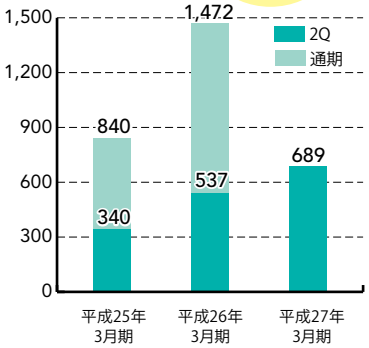
前年同四半期比 **8.4%増**



●経常利益

（単位：百万円）

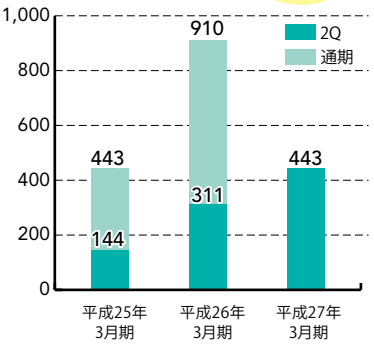
前年同四半期比 **28.4%増**



●四半期（当期）純利益

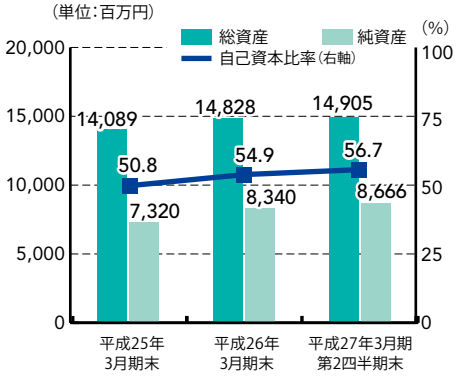
（単位：百万円）

前年同四半期比 **42.5%増**



●総資産・純資産 / 自己資本比率

（単位：百万円）



●連結損益計算書（要約）

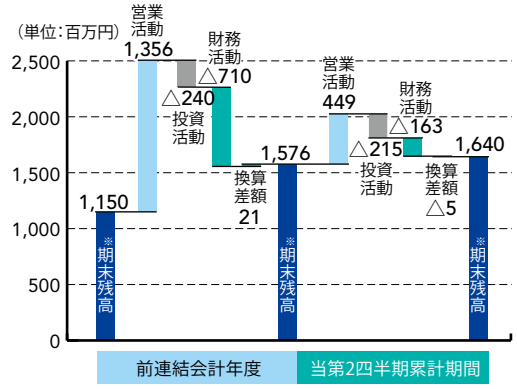
（当第2四半期累計期間：平成26年4月1日～平成26年9月30日 前第2四半期累計期間：平成25年4月1日～平成25年9月30日）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間	増 減
売 上 高	8,433	7,779	8.4%
営 業 利 益	710	564	25.9%
経 常 利 益	689	537	28.4%
当期純利益	443	311	42.5%

●連結キャッシュフローの状況

（単位：百万円）



※現金及び現金同等物

●連結貸借対照表（要約）

（当第2四半期末：平成26年9月30日現在 前期末：平成26年3月31日現在）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期末	前 期 末	増 減
流 動 資 産	8,438	8,369	0.8%
固 定 資 産	6,466	6,459	0.1%
資 産 合 計	14,905	14,828	0.5%

科 目	当第2四半期末	前 期 末	増 減
流 動 負 債	4,473	5,051	△11.4%
固 定 負 債	1,765	1,436	22.9%
純 資 産	8,666	8,340	3.9%
負債・純資産合計	14,905	14,828	0.5%

セグメント別事業概況

ファスニング事業

あと施工アンカー、建設資材の留め具であるファスナーなどの締結資材やドリルビット、電動油圧工具等を製造・販売しております。

建設資材の不足や人員不足により工事の着工に遅れが出ましたが、都市圏を中心とした堅調な再開発需要や維持保全需要の回復を受けて、主力製品である金属系・接着系アンカーやワンサイドファスナー、電動油圧工具の販売が好調に推移しました。

●売上高 6,568百万円
●セグメント利益 552百万円

リニューアル事業

あと施工アンカーをはじめとする締結技術を応用し、各種構造物を守る工法を開発、耐震補強等に活用しております。

太陽光関連はメガソーラーの物件や耐震補強工事の受注により好調に推移しました。一方、FRPシート関連商材は、補助金制度による特需の反動減の影響により売上減となりました。

●売上高 1,601百万円
●セグメント利益 141百万円

センサー事業

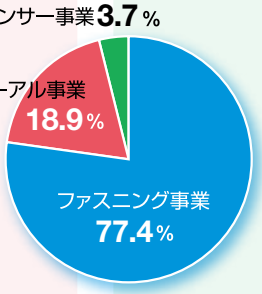
車両の表示板用や工事・事故の表示板用、観測機向けなどの電子プリント基板や各種測定器の生産・販売を行っております。

電子基板関連やアルコール測定器の販売は、前年同四半期とほぼ同じ推移となりました。

●売上高 317百万円
●セグメント利益 14百万円

●セグメント別売上高構成

（平成27年3月期第2四半期累計）



※セグメント間取引を含んでいるため、
合計額は連結売上高と一致しておりません。

Topics

第2回[関西]太陽光システム施工展

9月3日(水)～9月5日(金)
会場:インテック大阪

あと基礎アンカー及びディー・アーススクリューなどの太陽光関連商材の展示。太陽光商材開発の経緯と技術審査証明取得により信頼度が向上したディー・アーススクリューの紹介をプレゼン形式で実施しました。

第11回 国際物流総合展

9月9日(火)～9月12日(金)
会場:東京ビッグサイト(東ホール)

ＩＴ点呼対応のアルコール測定システムを中心に勤怠システムとアルコール測定器の一括管理やスマートフォンによる遠隔点呼のシステムの実演と展示を行いました。

エヌプラス

～新たな価値をプラスする材料と技術の複合展～
9月17日(水)～9月19日(金)
会場:東京ビッグサイト(東ホール)

低臭気・環境対応を実現し、適用範囲の広がった紫外線硬化ＦＲＰシート「e-シート」の実演と展示を行いました。

◀e-シートクイック

免責事項　本資料の将来に係わる記述は、現時点で入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確定な要素を含む仮定を前提としております。
実際の事業は、今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

会社概要

（平成26年9月30日現在）

商号	サンコーテクノ株式会社
設立	1964年5月15日
資本金	768百万円
社員数	313名（連結581名）
所在地	千葉県流山市南流山三丁目10番地16 TEL 04-7157-3535 FAX 04-7178-6661
取引銀行	みずほ銀行 りそな銀行 千葉銀行 京葉銀行
事業内容	建設資材（あと施工アンカー・ドリル・ファスナー等）、複合材、防水材、各種測定器の企画開発・製造・販売・施工及び輸出入

役員

代表取締役社長	洞下　英人
取締役副社長	佐藤　静男
常務取締役	洞下　正人
常務取締役	八谷　剛
常務取締役	上石　茂行
取締役	佐藤　靖
監査役	鈴木　英雄
監査役	甲斐　常敏
監査役	塙　善光

関連会社

連結子会社	SANKO FASTEM（THAILAND）LTD. 三幸商事顧問股份有限公司 株式会社IKK アイエスエム・インタナショナル株式会社 株式会社スイコー SANKO FASTEM（VIETNAM）LTD.
持分法適用関連会社	株式会社サンオー
持分法非適用関連会社	株式会社イーオプティマイズ

株式の状況

（平成26年9月30日現在）

発行可能株式総数	17,000,000株
発行済株式の総数	4,372,704株
株主数	1,879名

大株主

当社への出資状況

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
洞下　英人	575	13.15
東京中小企業投資育成株式会社	360	8.23
有限会社サンワールド	340	7.77
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	260	5.96
サンコーテクノ社員持株会	234	5.35
新井　栄	131	2.99
洞下　照夫	107	2.45
株式会社みずほ銀行	89	2.03
佐久間　菊子	83	1.91
佐藤　静男	80	1.84

（注）1.千株未満は切り捨てて表示しております。
2.当社は自己株式（303千株）を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

サンコーテクノ株式会社

〒270-0163　千葉県流山市南流山三丁目10番地16

株主メモ

上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ スタンダード
証券コード	3435
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	事業年度末日の翌日から3か月以内
基準日	3月31日
配当基準日	3月31日、9月30日（中間配当を行う場合）
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社　本店証券代行部
公告の方法	電子公告により当社ホームページ（http://www.sanko-techno.co.jp/）に掲載いたします。ただし、事故、その他やむを得ない事由によって電子公告をする事ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株式分割について

投資家の皆様がより投資しやすい環境を整え、一層の投資家層の拡大と当社株式の流動性の向上を図ることを目的とし、平成26年12月31日を基準日として当社普通株式を1株につき2株の割合をもって分割することを決議いたしました。なお、株式の分割に伴う株主の皆様への実質的な影響はございません。

株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
みずほ信託銀行株式会社
連絡先
フリーダイヤル 0120
0120-288-324

お問い合せ先

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行　証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル　0120-288-324 （土・日・祝日を除く 9:00～17:00）
各種手続きお取扱店（住所変更、株主配当金受取り方法の変更等）		みずほ証券 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗）でもお取扱いたします。 ※カスタマープラザではお取り扱いできませんのでご了承ください。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店（みずほ証券では取次のみとなります）	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続きお取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

この印刷物は、FSC®の基準に従って認証され、適切に管理された森からの木材を含んだ用紙に、「植物油インキ」を使用して印刷しました。

この印刷物は、復興支援の一環として、福島県の印刷会社に、デザイン制作および製造を依頼し発行したものです。